

第10回APCTP日本委員会会合議事録

日時：2012年10月22日（月）午前10時半より午後12時50分まで

場所：理化学研究所（和光）研究本館1階特別会議室（124,126）号室

出席者（順不同、敬称略）：菅原寛孝（沖縄科学技術大学院大学）、藤川和男（理研仁科センター）、横山順一（東大ビッグバンセンター）、橋本幸士（理研仁科センター）、高田康民（東大物性研）、保坂淳（阪大RCNP）、九後汰一郎（京大基研）、古崎昭（理研）、三宅和正（阪大基礎工）、岡真（東工大）、河本昇（北大）、多田司（理研仁科センター）

欠席者（順不同、敬称略）：井口英雄（日大）、早田次郎（京大理）、磯暁（KEK）、矢花一浩（筑波大）大野木哲也（阪大理）

議事：

1. 前回議事録承認

第9回APCTP日本委員会会合の議事録案が原案通り承認された。

2. 委員長互選等

出席した新委員会委員による投票の結果九後汰一郎氏が委員長に選出された。

3. 規約の修正について

APCTP日本委員会規則の修正案が原案通り了承された。これによりAPCTP日本委員会規則の第3条は

第3条（委員）

一、委員会は関連研究機関からの推薦と研究者コミュニティによって選ばれた委員により構成される。

二、一における関連研究機関および研究者コミュニティと委員の数および任期は別にこれを定める。

三、APCTPのTrusteeおよびCouncilを務める日本の研究者は、前記一によらず委員会の委員とする。

と修正された。

この改正により多田司氏が委員に加わった。

この後九後委員長が、菅原寛孝氏および藤川和男氏を顧問に、多田司氏を連絡幹事にそれぞれ指名し、受諾された。

4. 日本からのメンバーエンティティについて

日本からのメンバーエンティティを、理研仁科センターからこの11月18日を持って高エネルギー加速器研究機構素粒子原子核研究所へと移行することが議決された。

この際今後のメンバーシップフィーの支払い方法、APCTP日本委員会の性格付けと可能性などについて意見が出され、議論された。特に前回会合でも議論されたコンソーシアム構想についても改めて紹介された。メンバーシップフィーを将来的に分担することとなった場合の各研究機関の意向などがそれぞれ紹介された。またこれまでの経緯と韓国側が資金的にさら

に大きな寄与を要望していること、などが説明された。AAPPSとAPCTPとの関係について保坂委員から質問があり、これに対して藤川顧問による解説が行われた。広く国際協力の促進をも目指すコンソーシアム構想についてはこれに期待する一方で、日本委員会としてはメンバーシップフィーの支払い方およびメンバーエンティティについて日本委員会の範囲で実現可能な方策も検討していくこととなった。

5. 日本からの理事・監事について

日本からの監事として高エネルギー加速器研究機構研究協力部国際企画課課長の竹島恒氏を推薦することが決められた。

また日本からの理事として昨期までの理事であった藤川和男氏に引き続きお願いすることとし、藤川顧問の承諾を得た。

この際にGeneral Council等の権限について岡委員より質問があった。またこれに関して現在3名の日本からのGeneral Councilを日本委員会に参加している4分野分の4名に増やすことを要求してはどうかという意見が藤川委員から出された。

6. Board of Trustees報告・General Council報告

2012年4月に行われたGeneral Council meetingの報告が古崎委員より、またBoard of Trusteesの報告が代理で出席した河本委員より行われた。

7. APCTP報告

APCTPのExecutive Directorの交代などが報告された。

8. その他

今回委員長となった九後委員が2013年3月末で定年のため、それ以降基研選出の委員を務められない可能性が指摘された。後任については基研にお任せすることとし、九後委員が委員を外れた場合の委員長についてはその時点であらためて議論することとされた。これまでの経緯および韓国側からの要望などについて懇談が行われた。